

一般心理学講義におけるDIPExの活用

大学教育における患者インタビュー動画教材の有用性

いとうたけひこ 和光大学

森田夏実 東京女子医科大学

射場典子 ディペックス・ジャパン

日本看護学教育学会第28回学術集会 示説 P-1-17

2018年8月28日(火)10:40～11:40

パシフィコ横浜

第9会場(パシフィコ横浜会議センター301+302)

【問題】

- 厚生労働省(2016)の認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)では、学校の様々な段階で認知症についての理解を推進することを要請している。
- 医療系の教育では病いの語りが教材として取り入れられてきている。
- 心理学でもナラティブ・アプローチが注目されている。
- ナラティブ教材(小平・いとう, 2009)としてディペックスの教育的活用が注目されている(射場・後藤, 2017; 瀬戸山・青木, 2017)。

【目的】

- ディペックスの認知症夫婦のビデオクリップを心理学概論の授業でナラティブ教材として用いることにより、
- 学生の認知症の人に対する態度の変容が行われるかどうかを確認する。

ナラティブ教材としての闘病記

—多様なメディアにおける精神障害者の語りの教育的活用—

Autobiographical illness narrative documents
as narrative educational materials

Educational applications of narratives by people with mental disorders
in various media

小平朋江 (聖隷クリストファー大学) tomoe-k@seirei.ac.jp
Tomoe Kodaira (Seirei Christopher University)

伊藤武彦 (和光大学) take@wako.ac.jp
Takehiko Ito (Wako University)

日本精神保健看護学会誌 Vol. 22, No. 2, pp. 68~74, 2013

〔資 料〕

ナラティブ教材を用いた精神看護学授業での統合失調症の
イメージの変化

—テキストマイニングによる特徴語と評価語の分析—

Students' Change of Images toward Schizophrenia after the Mental Health
Nursing Class using Narrative Educational Materials

—A Comparison by Textmining—

小 平 朋 江¹⁾
Tomoe Kodaira

いとうたけひこ²⁾
Takehiko Ito

【方法】

- ナラティブ教材の視聴と授業の事前・事後に「認知症の人に対する態度尺度」(金・黒田, 2011)を実施した。
- 授業参加者のうち研究に同意した69人の質問紙の回答より下位尺度「寛容」「拒否」「距離感」「親近感」の得点の平均をt検定により比較した。
- 感想文を質的・量的に分析した。

- 倫理的配慮: 日本心理学会の基準に従い、倫理的配慮をおこなった。成績とは関係なく任意参加であることを説明して同意を得た。

【結果：量的分析】図1のように、4つの下位尺度全てにポジティブな変化が見られ、統計的に有意差が見られた($p < .001$)

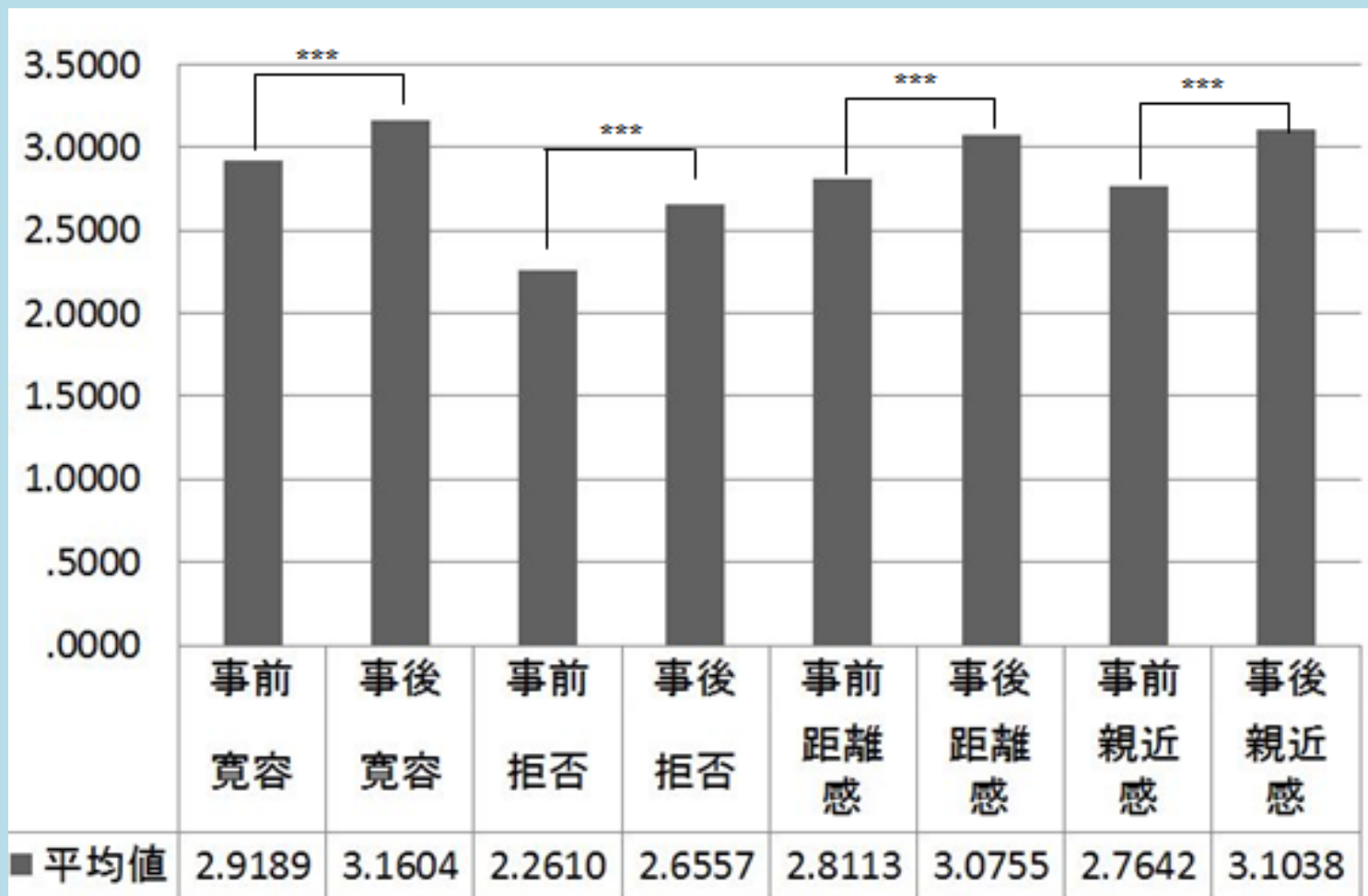


図1 認知症の人に対する態度尺度の4つの下位尺度の平均点の事前事後の変化

【結果：質的分析】 瀬戸山・森田・射場 (2017)によるナラティブ教材の学習効果の7分類に今回の自由記述の回答が該当した。

- 1 個々の当事者の苦悩に対する理解の深まり
- 2 疾患や障害に対する理解の深まり
- 3 当事者に対するイメージ・価値観の変化
- 4 当事者に対する共感や感情的な反応
- 5 当事者から見た、当事者と周囲との関係性に対する理解
- 6 **市民としての**姿勢や、医療、看護、社会の在り方
- 7 自分自身への省察 ※赤字は筆者改変

瀬戸山陽子 森田夏実 射場典子 2017 医療系学生が当事者のナラティブに触れることにより得られる学び—国内における文献レビュー—
— 日本看護学教育学会誌, 27(1), 1-10.

ポジティブ心理学のPERMA幸福理論

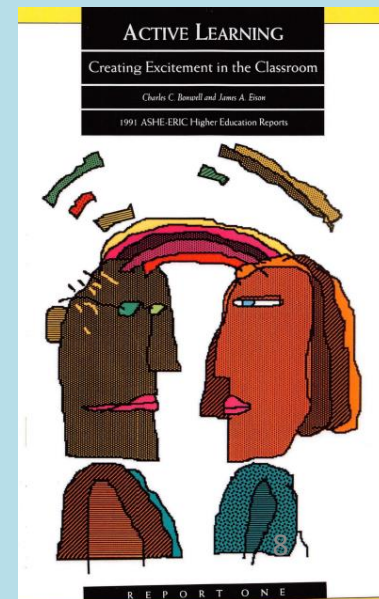


- P: Positive emotion 肯定的感情
 - E: Engagement 熱中・フロー (チクセントミハイ)
 - R: Relationships 親密な関係
 - M: Meaning 意味
 - A: Accomplishments 達成感、目標
- Martin.E.P.Seligman 2011 *Flourish: A Visionary New Understanding of Happiness and Well-being*. New York: Free Press. マーティン・セリグマン 宇野カオリ 2014 ポジティブ心理学の挑戦: “幸福”から“持続的的幸福”へ ディスカヴァー・トゥエンティワン
- <https://positivepsychologyprogram.com/perma-model/>
 - <https://www.habitsforwellbeing.com/perma-a-well-being-theory-by-martin-seligman/>



アクティブラーニングの一般的特徴

- (a) 学生は、授業を聴く以上の関わりをしていること
- (b) 情報の伝達より学生のスキルの育成に重きが置かれていること
- (c) 学生は高次の思考(分析、総合、評価)に関わっていること
- (d) 学生は活動(例:読む、議論する、書く)に関与していること
- (e) 学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きが置かれていること
- (f) 認知プロセスの外化を伴うこと
- 松下(2015)、Bonwell & Eison (1991)



ディープ・アクティブラーニング

- ディープ・アクティブラーニングとは、外的活動における能動性だけでなく内的活動における能動性も重視した学習 p24(松下, 2016)
- 一方向的な知識伝達講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。P31(溝上, 2016)



ライト・アクティブラーニング

- 橋本(2017)p7
- 教員側が「深さ」を最重要視せず、まずは「気軽に取り組めること」を重視し、結果として「広い学び」につながれば...
- 重要になってくるのが受講生同志の「対話」である。...気軽に口にできる場を提供する「学び合い」は自然の相互刺激をうみ、...潜在的な学修意欲や能力を自然に引き出す...その経験・感性の多様性を最大限に活用すること



【考察】

- 90分一回の授業であっても、認知症の人に対する肯定的な態度変容が見られた。
- 瀬戸山・森田・射場(2017)の7カテゴリーに基づいて学習効果を考察し、ディペックスの教育的活用は、医療系学生だけでなく、一般学生にも有効であることが明らかになった。
- アクティブラーニング(橋本, 2017)の教材としてディペックス・ジャパンのナラティブ教材は有用である。
- ※本研究はJSPS科研費15K11526の助成を受けた。
本報告は、別府宏圀・秋元るみ子との共同研究の一部である。

- 【文献】
- 射場 典子, 後藤 恵子 患者の語りの教育的活用 ファルマシア 53(2), 131-133, 2017
- 健康と病いの語りディペックス・ジャパン (2017) 患者の声を届けたい:「健康と病いの語りディペックス・ジャパン」10年の歩み 健康と病いの語りディペックス・ジャパン(パンフレット)
- 金 高●闌, 黒田 研二 2011認知症の人に対する態度に関連する要因: 認知症に関する態度尺度と知識尺度の作成 社会医学研究 28(1), 43-55.
- 瀬戸山陽子, 青木昭子: 低学年の医学生, 看護学生授業における患者インタビュー動画教材の有用性に関する質的分析, 医学教育, 48(4),243-247,2017
- 瀬戸山陽子, 森田夏実, 射場典子: 医療系学生が当事者のナラティブに触れることにより得られる学び: 国内における文献レビュー, 日本看護学教育学会誌, 27(1), 1-10, 2017

一般社団法人日本看護学教育学会 第28回学術集会
COI 開示

筆頭演者名 : いとうたけひこ

今回の演題に関して開示すべきCOIはありません。

- 小平・いとう、現在、隣の示説P-1-16で発表中
精神看護学教育におけるナラティブ教材の活用:UDRサイクルの重要性とアクティブ・ラーニングへの可能性

- 明日8/29(水)交流セッション

第5会場(会議センター418)

＜交流セッション12＞ 9:00～10:20

健康と病いの語り(DIPEx-Japan)の患者の語り(ナラティブ)から何を学ぶかPart7ー患者の病いを尊重できる医療者の育成のための教育プログラムを考えるー

＜交流セッション15＞ 10:30～11:50

映像と音声で伝える「慢性の痛みをもつ人とその家族の語り」データベースを用いた看護教育への活用可能性を探る

★当日の注意事項

- 掲示8/28(火)9:00～10:30、
- 撤去8/28(火)16:10～17:20

- 発表時間の10分前にポスター前集合、口述発表はありません
- 待機時間は60分間＝10:40～11:40
- ・小平・いとう(P-1-16)と隣同士になる可能性あり

- 配布資料の設置も含め掲示スペース(幅180cm占有できる)の有効利用

- DIP交流集会(翌日29日)のチラシ置く
- DIP交流集会8/29(水)9:00～10:20、10:30-11:50第5会場(会議センター418)